

評価実施年度	令和 6 年度	学校名	大分県立 大分豊府 高等学校	
学校教育目標	創造的な知性と豊かな人間性、逞しさを備え、高い志を持って国際社会でリーダーとして活躍できる人材の育成			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	・良い。 ・県下唯一の併設型中高一貫校として期待されるニーズ等を踏まえた学校経営ビジョンが策定されている。 ・重点目標の方向は概ね定まっていると見えるが、生徒に求める「主体性」の方向性がやや曖昧である。 ・「主体性」の内容について更に検討することが望まれる。 ・達成指標等が網羅的でメリハリがないため、達成の程度がわかるよう目標設定の明確化・数値化を期待する。	・生徒が身に付けるべき「主体性」について、運営委員会で明確化を図り、職員会議等で教職員に周知するとともに、生徒とも共有していく。 ・学校教育目標について、達成指標、取組指標の明確化・数値化を図り、重点目標に係る達成度を確認できるようにする。
	PDCAサイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどPDCAサイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	・良い。 ・中高合同授業研究会、同授業改善研修会の実施は中高一貫の長所を生かす取組として大いに評価できる。 ・組織的に授業改善を図り、PDCAサイクルによる評価・検証によって授業力の向上に取り組んでいる。 ・他分掌においても適切な取組指標を設定し、PDCAサイクルによる評価・検証の充実を図ることが期待される。 ・授業への主体的参加やICTの活用における実践の詳しい分析が求められる。	・分掌ごとの活動においても、取組指標の明確化・数値化を図り、各行事におけるアンケートを活用したPDCAサイクルによる評価・検証を実施する。 ・授業アンケートの項目を工夫し、生徒の授業への主体的参加やICT活用状況の分析及び改善を図る。
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	・極めて良い。 ・学年通信の発行や学校ホームページの更新により、行事や学校生活の情報が積極的に発信されている。 ・保健だよりを定期的に発刊し、啓発に努めている。 ・卒業生による講演会の実施は、生徒が進路を考える貴重な機会であり、大いに評価できる。 ・外部人材を継続的に活用し、広い視野を獲得する機会とキャリア教育の充実を図ることが期待される。	・講演会など今後とも外部人材を活用する場を設け、生徒の生きる力の育成を図る。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	・良い。 ・多くの授業で本時のねらいや授業のポイントが明示されており、ICTも活用している。 ・具体的な問いを提示し、意識的に生徒に考えさせる時間を設定する等の工夫が見られる。 ・生徒の意見に対してクラス全体で議論を深め、共有するという授業の工夫が更に求められる。 ・振り返りを実施し、知識を関連付け、深い理解や新たな課題へと繋げる活動が求められる。	・県立高等学校授業改善実施要領に基づいた3つのビジョンと6つのアクションの実現に向けた授業改善計画を作成し、PDCAサイクルに則っとり全体及び各教科での授業改善を図っていく。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	・良い。 ・不登校の生徒に対する校内体制が整備され、スクールカウンセラーとも連携して適切な対応がとられている。 ・生徒自身が学習時間や内容を振り返る「きせきノート」を利用して、面談や相談が計画的に行われている。 ・「友愛タイム」(人間関係づくりプログラム)の取組も充実している。 ・現時点ではいじめは確認されていないとのことであるが、常にいじめ問題にアンテナを張ることが期待される。	・今後ともいじめ・不登校等の対策については、管理職がリーダーシップを発揮し、各分掌が連携して安全で安心できる学校づくりに丁寧に対応していく。
	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	・良い。 ・多くの生徒が自転車通学であるが、安全指導が定期的に行われ、重大な事故は起きていない。 ・教職員による学校施設の安全を図る取組が行われている。 ・危機管理マニュアルが整備され、緊急の事態の発生に適切に対応できる体制がとられている。 ・昨今の不審者による事故の発生への対策について、段取りの確認と訓練が求められる。	・危機管理マニュアルの整備及び教職員への周知を一層図り、各分掌が連携して安全で安心できる学校づくりに丁寧に対応していく。
信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しが行われているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。	・「きせきノート」の個別指導における活用が不十分であり、検証・改善することが求められる。 ・配信講座の活用や外部模試の平日実施等、週休日の業務削減に関する取組が見られる。	・「きせきノート」の記録内容や活用方法の刷新を図り、各学年で効果的かつ効率的な生徒指導となるよう工夫する。
	学校課題の解決に向けた取組等	○学校目標に掲げる世界的視野の獲得に対応した教育環境づくりが行われているか。 ○スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの達成に向けた教育活動が計画されているか。	・生徒が国際的に活躍するために、世界に羽ばたく機運を学校に醸成することが望まれる。 ・必要な世界的視野を獲得させるために、外国の姉妹校との関係構築や英語教育の推進が期待される。	・本校OBや県内外で活躍する方々の講演会やミラナビ(総合的な探究の時間)での研究を通して、世界的な視野や展望を持ち、大きな夢の実現に向けて努力する生徒を育成していく。 ・留学生との交流や海外研修等を企画し、英語教育の一層の推進を図っていく。
総合評価	<p>・「主体性の育成」という学校教育目標を達成するために、各分掌が常に問題意識をもち、PDCAサイクルを回して絶えず現状を評価し、意欲的に見直しに取り組むことが望ましい。</p> <p>・「主体性の育成」をテーマに取り組んでおり、授業では考える時間の創出や振り返りの工夫に力点を置いて展開しようとしている。</p> <p>・ICTを活用しつつ、ペア学習やグループ学習を取り入れて考えさせようとする実践が行われており、組織的な授業改善が進行中である。</p> <p>・学校教育目標に掲げる「世界的な視野の育成」に関して、世界的に活躍する卒業生との交流やグローバルリーダー育成塾への参加の促進、台湾からの訪問団の受け入れ等の教育環境が整いつつあり、学校の熱意が伺えた。</p> <p>・今後は、生徒が学びへの興味・関心を高め、生徒自らが問いを立てるような場面を含んだ授業づくりが求められる。それにより、指示がなくても自ら予習する態度が生まれ、授業への参加に一層意欲的になることが期待される。</p>			
校長コメント(次年度の改善策)	<p>・本校が目指す生徒の主体性とは「授業内容や活動内容に興味・関心を持ち、自ら積極的に学習や活動の計画・立案・運営に取り組み、振り返って次につなげていける力」だと考えている。次年度は、授業においても諸活動においても、この力を身に付けさせるためにより具体的な取組指標を設定して、指導に当たっていききたい。</p> <p>・ICTを活用しての授業改善の目的は、生徒が考え、意見を交流させる時間の確保であり、その時間がなければ学力向上はありえないと考えている。こうした目的を全教職員が共有し、さらに活性化された授業実践を次年度は積み上げていきたい。</p> <p>・世界的に活躍する人の育成には、生徒の視野を広げ、既存の価値観を揺さぶる機会の提供が欠かせない。より生徒の現状に即した、興味・関心を喚起する教育機会の充実と教育環境の整備を図っていききたい。特に、次年度は読書体験を通して自らを見つめる活動の充実にも努めていきたい。</p> <p>・生徒の主体性を育てるという意味でも、できる限り生徒に時間を返していく取組が必要である。教員の指導時間を削減し、生徒自らが、自分の考えで何かに取り組んでいる時間をさらに増やしていきたい。このことが副次的に働き方改革にもつながると考えている。</p>			